



笹田トヨ子 6月議会報告(その1)・・・ 荒崎問題

荒崎地区はどこまでが遊水地か、土嚢積みの目的は、処分場のダイオキシンは、

大垣市議会定例会(6月議会)の一般質問が9日に行われ、私は、荒崎地区に関わる3件の問題、合併問題、住基カードの問題について取り上げました。今週から3回にわたって一般質問の内容について報告します。(笹田トヨ子)

(質問と答弁) 大谷川洗い堰が60センチ嵩上げた時、どこまで遊水地と想定していたか・・・どこまで遊水地かという質問には答えず、60センチの嵩上げの目的は「越流頻度の軽減措置」と答弁。「土嚢積み」の目的は何か・・・「昨年規模の洪水に対して住宅地への浸水到達時間を最長4時間遅らせるため」農地の水害補償同様、住宅地にも補償を・・・「住宅地の水害補償をするつもりはない」洗堰の監視カメラのモニターを荒崎地域にも設置を・・・「モニターの設置は考えていない」

大谷川洗堰は、河川が増水すれば水を溢れさせ堤防の決壊を防ぐ役割を持っています。本来なら洗堰から溢れた水をためておく遊水地が必要ですが、大谷川の場合はっきりした池はなく荒崎地域一帯がその役割をもっていたと考えられます。55年、60センチ嵩上げ当時、過去最大規模の洪水ではどこまで水が来るか計算できたはずで、住宅地への浸水に対して何ら手を打ってこなかった行政の責任は問われると思います。そして、今回の「土嚢積み」も昨年規模の水害に対しては「洪水時間を4時間遅らせる」のみで、住宅地の浸水を防ぐことはできません。ですから、今後も

荒崎地域は遊水地機能を担うわけですから、農地の被害補償と同様、当然住宅地も補償の対象になると考えます。

この問題については今後も取り組んでいきます。

(質問と答弁) 荒崎住民は今年の固定資産税の評価を不服とし遊水地並の固定資産税を求めています。答弁は「固定資産評価基準に基づき適正に評価額を決定」と。一般廃棄物処分場のダイオキシン対策は？ また、地域住民と公害防止協定を結ぶつもりはあるか、の質問に対し「地元自治会等と検討していく」との答弁。

固定資産に対する市の答弁は納得のいくものではありません。市街化地域とはいえ、洪水時には遊水地機能が働き度々水がついてきた特殊な地域です。宅地並みの固定資産と都市計画税を払っていますが、下水道も完備しておらず、水害の時には浄化槽の蓋がプカプカ浮き、汚水が溢れ出していたということです。一方ダイオキシン類の問題では、地域住民と公害防止協定の締結について検討していくとの答弁が得られました